

養豚農家のための 農場HACCP入門

最終回 作業から起こりえる危害を考えてみよう

千葉県・なのはなベテリナリーサービス 榎戸利恵

肉豚生産に携わる 一人一人の意識向上を

読者のみなさん、こんにちは。なのはなベテリナリーサービスの榎戸利恵です。

今回で最終回です。いよいよ、HACCPの醍醐味、危害分析とCCP運用に入っていきます。

最初にお伝えしておきたいことがあります。HACCP手法を畜産に応用する必要性が問われてから何年も経ちます。全国各地の自治体でいろいろなHACCP認証制度ができたりしていますが、どれも手づくりで、どれが正解というものはないのだと思っています。これから国の認証制度が立ちあがるようですが、それだけが正しいというわけではありません。

私個人としては、多くの養豚場でfrom farm to tableの概念が浸透し、食品をつくるという意識をより強く持っていただけるきつかけになればいいからこの記事を書かせていただいております。

大切なのは手法を完成させることではなく、肉豚生産に携わる一人一人の意識が向上していくことなのだと思います。最後になりましたが、約半年にわたり、記事をお読みくださいました皆さまに心から感謝を申し上げます。

危害分析とは？

(1) 危害とは何のこと？

危害とは食品として、人が食べたときに危害となるものです。分かりやすくいうと、すでに養豚での危害として有名なのが以下の三つです。

①物理学的危害

異物混入ですね。豚肉では、注射針です。

②化学的危険

豚肉を飼う上でありうるのが、医薬品の残存です。

③生物学的危害

細菌やウイルスなどで人に感染すると悪影響があるもの。サルモネラは食中毒を起こしますね。

(2) 危害の見つけ方

しかし、農場によって起こりやすい危害は飼養方法によって違います。例えば、完全に無薬で養豚を実施している農場では、抗生物質の残存は起こりませんね。

各農場でそれぞれ実施している飼養方法から起こりやすい危害は導き出されるべきです。

危害を見つけるには、いろいろな方法があります。

①最初から針、薬、サルモネラという三つに限定する方法

この方法でも十分機能すると思いますが、この危害が農場にとって妥当性があるかはしっかり管理獣医師の判断を仰いだほうがよいでしょう。理由は、農場本位で決めた方法だと農場にとって都合よく決めてしまう場合があり、安全な食品の原料という裏付けが難しいからです。農場の飼養管理に精通する獣医師への相談で進めましょう。

②コーデックスの八要件から起こりうる危害を導き出す方法

この方法は、いわゆる漏れのない

＜8. 従事者の教育・訓練＞

設定日： 年 月 日 作成： 承認：

55

【書式A】対象：_____

危害分析とCCP(重要管理点)の決定

作業工程	①起こる可能性のある危害がこの工程に存在するかまたは入るか？ ②管理条件により増大するか？ ③条件に適合する管理により制御されるか？	この危害はHACCP計画で扱わなければならないほど重要か、一般的衛生管理で可能か？	HACCP計画あるいは一般的衛生管理で扱うとした理由は何か？	HACCP計画において、危害の予防、排除、減少にどのような制御手段をとるか？	この工程はCCPとするか？

設定日： 年 月 日 作成： 承認：

【書式B】対象：_____

管理基準とモニタリング、改善(是正)措置の決定

作業工程	管理基準	モニタリング(監視)方法				改善(是正)措置
		何を	どのように	何時	誰が	

設定日： 年 月 日 作成： 承認：

【書式C】対象：_____

記録の記入と検証方法

作業工程	CCP	検証方法	記録付けの手段

設定日： 年 月 日 作成： 承認：

危害をCCPで管理するか どうかを決めましょう

危害が導きだされたら、危害リストにします。

それらの危害を発生させないために、どの方法で管理するかを仮決定します。

1. CCP?
2. 一般マニュアル? (SOP)
3. それとも衛生に関わるマニュアル? (SOP)

前回までに実施した作業分析を改善した一般マニュアルと、さらに衛生的に大切なところをSOPとして管理します。ここでCCPとして管理する方法を選択したら、次の危害分析へ進みます。

危害分析 — 対応方法 —

以下に例を示します。参考にしてください。

危害分析には、表1、書式A、書式B、書式Cなどを用いて、どのよ

うに管理して、CCPがうまくいつていることを検証し、さらに検証方法の整合性をとります。そして、ここまできて初めてHACCPの運用開始です。

ただ形だけそろっても、しっかり運用されなければ宝の持ち腐れにすぎません。せっかくやったのですから、定期的に第三者（コンサルタント獣医など）を入れて機能していることを検証してもらいましょう。

外部コミュニケーションを含め、他人を受け入れられること、それが農場が改善に向かっている目安です。そしてHACCPを運用する上で大切なこととして、ゴールがどこへ向かっているかということを挙げておきます。常に心においておきましょう。しっかり意図した方向へ向かっているはずです。



何かご不明点がございましたら、お気軽にinfo@nanohanavet.jpまでご連絡ください。

おわり

